

「再建の人生 神により頼む&真実の悔い改め」

マルコ 6:7～13

■ はじめに

ある男の子が夏休みの自由研究で何をしようかすごく悩んだ挙句、決めたこと。それは「最後まで宿題をやらずに最後の日に宿題を忘れていた！時の家族の反応とその時の自分自身の反応を調べる自由研究。」でした。そして夏休み最終日。男の子は言いました。「お父さん、夏休みの宿題をするのを忘れていた！！何もやっていない。」するとお父さんは言いました「僕もそんなことがあったな！」するとお母さんが言いました。「何を言っているの！あなたずっと宿題をやっていたと言っていたじゃないの！ずっと嘘をついていたの！？もう一週間ごはんをあげない！」その後、男の子も徹夜で宿題をやりました。汚い字で適当な内容で…。次の日先生にやはり怒られました。彼は思いました。なんてひどい自由研究を考えたんだろうと。後悔してもどうにもならないと。こういう事が私達もいっぱいあるわけです。私たちの人生も間違った決断をして、間違った考えによって間違ったことをする。間違え尽くし。そして後から思うんです。どうしてあんな事をしたのだろうか！？こうしておけば良かったなあ…。だから私たちは今、考えようと言っているのです。本当にそれでいいのか！？本当にそれでどうなるのか！？神様は私たちの人生のなかで何をしろと言ったのに、私達はそれをどうしてしまったのか！？ということを考えようと…。それを受け入れなければいけないことも時にはあるわけです。最善をつくしてもそれが届かない時もあります。それでも私たちは最善を尽くさなければいけないのです。

■ あなたはどちらの国に生きるのか？ 【神により頼む&真実の悔い改め】

無理だろうと思っていでも、なんとか出来ることがあります。私たちの人生も同じことです。では、人生の問題というのは頭で考えても出来るのでしょうか！？そうではありません。ですから私たちには方法があります。聞いて考える。神様が答えてくれる時は、私たちに解決の方法となぜそうなったのかを教えてください。ですから解決の方法を聞いた私たちはなぜそうなったのかという問題に対して考えなければなりません。では神様はどうやってしなさいと言われていてでしょうか？それは「悔い改める」という方法です。

■ マルコの福音書 6章 7,8 節

遣わすシャラハ：「人」がシャラハ「その手を伸ばして」そして「いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることをのびに」創世記 3:22 遣わす…エデンの園で人が木の実を掴もうとした時と同じ。黙示録では、十二の実、それは素晴らしい祝福といっています。人間は罪を犯して神に背いて手を伸ばして食べてはいけないといった実を食べた。結果、人のせいにしました。そこから、私たちは罪人だといわれました。そして失敗すると人のせいにするようになりました。「二人ずつ」エデンの園に置かれたアダムとエバを指し示したものだと考えられます。「人がひとりているのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」パウロはこのような関係をキリストと教会の関係といったわけです。イエス・キリストと私たち。アダムとイブ。すべてが一緒なのですアダムとイブの回復がなされ、そして教会とイエス・キリストによる一致によって始めて神様のアダムとイブの回復がなされるということが言われているのです。「『それゆえ、男と父と母を離れ、その妻と結ばれ、二人は一体となる』この奥義は偉大です。私はキリストと教会とをさして言っているのです。」(エペソ 5:31,32) 汚れた霊を制する 杖一本「杖」マッケール創世記 30:37 「パンも、袋も、胴巻の小銭も」禁じました。アブラハムの子イサクの子ヤコブ(創世記) 32:9「ヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。私に「あなたの地、あなたの生まれた地に帰れ。私はあなたを幸せにする」と言われた。【主】よ。32:10 私は、あなたがこのしもべに与えてくださった、すべての恵みとまことを受けるに値しないものです。私は一本の杖しか持たないで、このヨルダン川を渡りましたが、今は二つの宿営を持つようになりました。』 アダムとイブが蛇によって誘惑され罪を犯しました。しかし私たちの心に忍び寄る悪しき声は、イエス・キリストによってもう一度遣わされるときに私たちはそれを制することが出来ます。私たちだけではダメだったけど

彼に聞くなら解決できるのです。だから杖一本。なのです。あなたは神様以外の方法で必要を満たそうとしていないでしょうか？ヤコブは神様の方法で栄えたのです。

■ マルコの福音書 6章 9,10 節

履き物 ナアル (創世記)14:21『ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」14:22 アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地と造られた方、【主】に誓う。14:23 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムは富ませたのは、この私だ』とあなたがたに言わさないためだ。』アブラムが神様から与えられた最初のものです。神様から着させてもらった服と履き物、これだけを神様がゆるさされました。つまり問題の解決も進むべき道も全て私が用意すると神様が言っているのです。「下着は二枚着ないようにと命じられた」(創世記)3:21『神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。一軒の家に入ったらその家にとどまりなさい。』『集める』アーサフとは、イエスキリストが選んだ方法です。(ミカ書)2:12『ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。私は彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起ころ。』

■ マルコの福音書 6章 11-13 節

「あなたがたを受け入れず、あなた方の言うことを聞かない」集まって来ない者たちは、「足の裏のちりを払い落しなさい」「足」レゲル足を休める場所、帰る場所。(創世記)8:9『鳩は、その足を休める場所が見あたらなかったで、箱舟の彼のもとに帰ってきた。』『ちり』アーファール(創世記)2:7『神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。』『払い落とす』ナール(エジプト記)14:27『【主】はエジプト人を海の真ん中に投げ込まれた。』神様が与えようとしているのは安息です。神のもとに来て本当の自分にかえる安息を与えようとしています。しかし私たちはそれを選ぶことができないのです。私たちは神様の前に集まりたいと思います。主はエジプト人を海の真ん中に投げ込まれました。安息を選ばないなら「ちり」を「払い落とされます」それは「永遠のほろび」を意味します。しかし、立ち返るなら、神のいのちのこぼれによっていのちを得ることができるのです。だから「悔い改めなさい」と言われています。「悔い改める」シューブ 「悔い改める」とは、死んでその肉体が「土に帰る」死にもう一度新しく造りかえられることです。(創世記)3:19『あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにあなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。』 私たちが考えなければならないことは、それは、「悔い改めない」こと。「私は悪くないと。」自分の罪を認められないことです。神様は私達を謝らせたいわけではなく、戻したいだけです。間違った生き方をしているのであれば戻したい！私の所に来てもし何かが違っていただければ改めなさいと神様は言われています。 今、心を頑なにしてはいけません。

さいごに

もし、あなたの人生の中で絶対に沈没しないと言われたタイタニック号が沈むような問題があるとすれば、私たちは何かをしなればいけません。神様は私たちに根本的に解決を与えて下さいます。古いものを捨てて新しくなれ…。私たちは罪をおかしました。だから彼がその罪を背負って犠牲になりました。今日決断しませんか！一部だけを手放し都合の良いところだけを悔い改めても意味がありません。神様はあなたを責めてはいません。行こうではありませんか。イエス・キリストがすべてを用意すると言っているのだから。

(要約者:西崎 孝之)

(2023年 3月 19日)